

# 地震からの避難

## その前に

～ 知っていますか？

地震後の電気火災を防ぐ感震ブレーカー ～

問い合わせ 消防課 ☎1048

電気火災を防ぐためには、地震発生後に分電盤のブレーカーを落としてから避難することが大切です。

阪神淡路大震災や東日本大震災では、地震による火災の約6割が電気起因するものでした。

今回は地震を感知すると自動的にブレーカーを落としてくれる感震ブレーカーを紹介します。

感震ブレーカーを適切に設置して電気火災から家と地域を守りましょう。



Q. 地震による電気火災は、どのように発生するの？

A. 地震の揺れに伴う電気機器からの出火だけでなく、停電後に電気が復旧したときに発生するケースもあります。



事例①

地震で本棚が倒れ、紙類が電気ストーブの周辺に散乱

▶ 停電した状態から通電し、ストーブが作動

▶ 紙類に着火し、火災が発生



事例②

家具が転倒し、電気コードが損傷

▶ 通電の瞬間、電気コードがショート

▶ ショートした電気コードから、近くの燃えやすいものに着火し、火災が発生



Q. 感震ブレーカーってどういうものなの？

A. 感震ブレーカーにはさまざまなタイプがあります。タイプごとの特徴は次のとおりです。



	分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
タイプ				
特徴	内蔵のセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断します。	外付けしたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断します。漏電ブレーカーが設置されている場合に設置できます。	コンセントに内蔵のセンサーが揺れを感知し、コンセントからの電気を遮断します。	地震発生時に、ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として電気を遮断します。
標準的な価格	5～8万円	2万円	5,000円～2万円	3,000円～4,000円
電気工事	必要	必要	必要なタイプと、コンセントに差し込むだけで不要なタイプがあります。	不要



購入、設置にあたっては、お住まいの環境に適したタイプを選んでください。



電気工事については、お近くの電気工事店にご相談ください。

※ 工事には別途費用が必要です。



感震ブレーカーの設置の有無に関わらず、地震発生後に自宅から避難するときには、ブレーカーが落ちていることを確認しましょう。



停電後に通電するときには、事前にガス漏れなどがないことや、電気製品の安全を確認しましょう。

分電盤タイプのように、家庭内の全ての電気を遮断するものは、生命の維持に直結するような医療機器などへの影響が考えられます。日頃から停電に対処できるようバッテリーなどを備えたり、コンセントタイプの感震ブレーカーを医療機器の電源を除いて設置するなどしてください。